



## 『 慢性腎臓病（CKD）について 』

平成 30 年 4 月より腎臓内科が新設され、腎臓内科医が常勤医として赴任しました。鹿児島厚生連病院は、巡回健診・人間ドック等の健康管理活動や肝臓・消化器・呼吸器を中心とした医療提供をし、「予防から治療にいたる一貫体制」のなか、生活習慣病のひとつでもある慢性腎臓病（CKD）も増加させない疾患として取り組む体制となりました。

CKD は慢性に経過するすべての腎臓病を指します。患者さんは 1,330 万人（8 人に 1 人）いると考えられ、新たな国民病ともいわれています。CKD はメタボリックシンドロームとの関連が深く、誰でもかかる可能性があります。CKD が進行すると、むくみ、貧血、倦怠感、息切れなどの症状が現れてきます。これらの症状が自覚されるときは、すでに CKD がかなり進行している場合が多いといわれています。つまり、体調の変化に気をつけているだけでは早期発見は難しいといえます。定期的に健康診断を受け、尿や血圧の検査をすることが早期発見につながります。

JA 鹿児島県健康管理センターは 40 年の歴史があり、今後も早期 CKD 発見や予防に鹿児島厚生連病院と連携を強化していきます。また人工透析機器も導入され、消化器・呼吸器疾患患者で腎機能がよくない患者さんの手術も可能となりました。今後 CKD は増加していくことが予想されるなか、当院も診療機能の充実を図るとともに、地域医療機関の皆様との連携をさらに深めていくことが重要と考えております。地域に貢献できる医療機関として、当科も尽力してまいりますので、腎疾患に関するご相談・ご紹介をいただけるよう今後とも宜しくお願いします。

鹿児島厚生連病院  
診療部 腎臓内科医長  
屋 万栄